

発行：社会福祉法人 川崎市社会福祉協議会

問合せ：川崎市社会福祉協議会 ボランティア活動振興センター 地域福祉情報バンク

川崎市中原区上小田中6-22-5 川崎市総合福祉センター6階

電話：044-739-8720 / E-mail：jyoho@cs-w-kawasaki.or.jp

2024年夏号の内容は…

★ボランティアを始めてみませんか？

★「合理的配慮」に関連する図書・DVDの紹介

★災害ボランティアセンターとは

★新着図書&DVDの紹介



…など、今号も情報満載でお届けします！

ボランティアを始めてみませんか？

ボランティアは、自分にできることや、自分の関心のあることから始めることができる身近な活動です。日本ではボランティアを無償の「奉仕活動」と捉えられがちですが、本来の意味は「自発的な意志による行動」を指します。

ボランティアには「4つの原則」があります。

- ①自分から進んで行動する「自主性・主体性」
- ②共に支え合い、学び合う「社会性・連帯性」
- ③見返りを求めない「無償性・無給性・非営利性」
- ④よりよい社会を作る「創造性・開拓性・先駆性」

ボランティア活動を通して、誰かのために活動することは、地域や社会をより良くすると同時に、活動する自分自身も豊かにしてくれるはずですよ。

川崎市社会福祉協議会では、「ボラ・ナビ 2024」を発行しました。

「何かボランティアを始めたい」と思ったときには、思い切って新しい世界に飛び込んでみませんか？

ボラ・ナビ2024
はこちらから！



VN 2024
volunteer navigation
KAWASAKI ボランティアナビゲーション
【ボラ・ナビ】

ここから始めよう
川崎市のボランティア情報



ボランティアの受入れを行っている施設・団体等
97件を紹介。

Q. どんなボランティアがありますか？

A. 保育園や高齢者施設・障害者施設でのお手伝い、環境保全や国際交流、こども食堂等でのボランティアもあります。

Q. ボランティアを探すときのポイントは？

A. 自分の好きなことや特技が活かせたり、興味・関心があることを探してみましょう。場所・時間帯・期間等、自分のライフスタイルを考え、無理なくできるかどうかを考えることも大切です。

Q. ボランティアで何か得ることはできますか？

A. 一緒に活動する仲間との出会い、ボランティア活動を通して新たな発見や喜びなどを得ることができます。また、社会に貢献することで、達成感や充実感を感じることもできるのではないのでしょうか。

Q. ボランティアはどうやって始めたらいいの？

A. まずは、情報を集めましょう。「ボラ・ナビ」をはじめ、各区社協のボランティア情報誌などにも募集情報を掲載しています。社協ではボランティアに関する相談も受け付けています。お気軽にご相談ください。

Q. ボランティアを始める時に気をつけることは？

A. ボランティア活動は「～してあげる」という考え方ではなく、お互いに助け合う気持ちを持つことが大切です。相手の立場を尊重しお互いに気持ちよく活動できるよう心がけましょう。ボランティア保険への加入も忘れずに！

「ボラ・ナビ2024」は川崎市社協及び各区社協で配布しています。また、市社協HPからもダウンロードできます。





合理的配慮に関する図書・DVDの紹介

～地域福祉情報バンクで貸出しています～



2024年4月から事業者による障害のある人への合理的配慮の提供が義務化されたことをご存知でしょうか？

合理的配慮の提供とは、障害のある人から何らかの配慮を求める意思表示があった場合には、負担になりすぎない範囲で行う対応のことです。障害のある人を特別扱いするのではなく、障害のない人と同等の機会を提供するという考え方のもと、すべての人が等しく社会に参加できるように、一人ひとりの特性に合わせた配慮をすることが求められています。

「なぜ合理的配慮が必要なの？」「具体的にはどう行動したらいいの？」など、今回ご紹介する図書やDVDと一緒に考えてみませんか？



「合理的配慮」について
政府広報オンラインHP

合理的配慮 対話を開く 対話が拓く

「合理的配慮」という概念は、障害分野を超えて「共生の技法」となる可能性を秘めている。その意義と課題を、法学・社会学・ジェンダー研究の視点で追究する。

(川島聡、飯野由里子、西倉実季、星加良司/有斐閣/2016年発行)



改訂2版 ユニバーサルサービス基本テキスト

共生社会（ユニバーサル社会）の実現のため、高齢者、障害者、妊婦、外国人などへの配慮（ユニバーサルサービス）を実践するための書籍。配慮が必要な人が抱える不自由さへの基本的理解と、店舗・施設ですぐにできる接客・接遇について、やさしく解説。（紀薫子/日本能率協会マネジメントセンター/2023年発行）



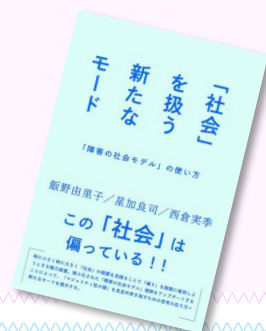
発達障害・知的障害のための 合理的配慮ハンドブック

障害者差別解消法により、障害者に対する「合理的配慮」の提供が求められている。判断が難しい発達障害・知的障害の事例に焦点を当て、法的視点、医療・心理的視点、教育的視点から具体的に解説。（土橋圭子、渡辺慶一郎/有斐閣/2020年発行）



「社会」を扱う新たなモード 「障害の社会モデル」の使い方

矮小化された「障害の社会モデル」理解をアップデートすることによって、「マジョリティ性の壁」を見定め突き崩すための思考の在り方=新たなモードを提示する。（飯野由里子・星加良司・西倉実季/生活書院/2022年発行）



障害のある方への合理的配慮 考え方とは？ 進め方とは？

「障害者も含めた多様な人々に対応できない社会のあり方こそが障害なのだ」という新しい考え方が広まる中で、さらに周知が求められるのが「合理的配慮」である。

「合理的配慮」がなぜ求められるのかを考え、そのあり方を示唆する。

(監修:秋山愛子/映学社/2023年発行【字幕+手話版】同時収録、音声ガイド付)



合理的配慮 知的障害・発達障害のある人への 自立のためのコミュニケーション支援 (全2巻)

- 第1巻：概念的な理解を促すために講座形式で合理的配慮を考え、3人の講師がそれぞれのテーマについて講座を開く。
- 第2巻：実際の子どもたちへの合理的な配慮の個別指導を17のケースで紹介。（監修:坂爪一幸・湯汲英史/アローウィン/2016年発行）





災害ボランティアセンターとは



大規模な災害が起こった時に、災害ボランティア活動を円滑に進めるための拠点として設置されるのが「災害ボランティアセンター」です。

今年の1月1日に石川県で発生した能登半島地震でも、被災地の社会福祉協議会が中心となって災害ボランティアセンターを立ち上げ、現在も被災者支援に尽力しています。

全国の社協職員をはじめ、企業やNPO団体なども被災地の災害ボランティアセンター運営に携わっており、川崎市社協では11名の職員が、石川県中能登町・七尾市・能登町の各災害ボランティアセンターに派遣されました（6月8日現在）。

全社協 被災地支援・
災害ボランティア情報は
こちらから



地震や台風などの災害はいつどこで起こるかわかりません。川崎市でも大きな災害が起こったときにはどうしたら良いのか、改めて考えてみましょうか？



能登半島地震で被災地派遣を経験した職員に話を聞きました。



Q、現地ではどのような活動をしましたか？

現地社協や他都市社協の職員と共に、災害ボランティアセンターの運営を行いました。主な活動は被災者のニーズ受付、現地調査、被災者とボランティアとのマッチング、ローラー活動などでした。

※ローラー活動…災害ボランティアセンターの周知活動（チラシ配布・ポスティングなど）



災害ボランティアセンター
運営の様子



当日の活動内容を説明
マッチングの様子



現場に向かうボランティア
のための資材

Q、川崎で災害ボランティアセンターを立ち上げることになった時、大切にしたいことは何ですか？

実際に被災地で運営に関わったことで、川崎で災害ボランティアセンターを立ち上げた時に、どう動いたら良いかというイメージができました。社協・行政・市民活動センターが連携し、市民の皆さんに協力してもらえそうな関係づくりをしていくことが大切だと感じています。

どこに連絡したら良いのか、困ったときには何をしてもらえるのかなど、正しい情報が伝わるようにするためには、日頃から社協の認知度を上げていくことも必要だと感じました。

災害時こそ、地域に根ざした活動をしている社協の強みを活かし、被災者の気持ちに寄り添った支援、災害後の生活課題についての継続的な支援を行って行くことを大切にしていきたいと思っています。



Q、今備えておくこと、何かできることはありますか？

ハザードマップ・避難所の確認、備蓄品の用意などはもちろんですが、地域でのつながりを作っておくことが大切です。支援の手が届くまでには時間がかかるため、近隣の人とお互いに協力し、助け合うことが必要となります。困った時に頼れる人を近くに作っておきましょう。

大きな災害が起きたときは、必ず「災害ボランティアセンター」が立ち上がります。社協のHPやSNS等では、ボランティアをしたい方・ボランティアに来てもらいたい方それぞれに向けた情報を発信することを覚えておいてほしいと思います。

日頃から災害・防災を意識して生活することが大切です。社協では毎年、防災訓練や災害ボランティアに関する研修なども行っていますので、市民の皆さんもぜひご参加ください。





新着図書&DVDの紹介



【図書】（書名／著者名／出版社）

- ヤングケアラー みえない私／相葉キョウコ／集英社
- 藍色時刻の君たちは／前川ほまれ／東京創元社
- 流れと対応がチャートでわかる！ 子どもと大人の福祉制度の歩き方／浜内彩乃／ソシム
- 孤独死大国 予備軍1000万人時代のリアル（文庫）／菅野久美子／双葉社
- 老後ひとり暮らしの壁 身近に頼る人がいない人のための解決策／山村秀炯／アスコム
- 認知症グレーゾーンからUターンした人がやっていること／朝田隆／アスコム
- マンガで解決 親の認知症とお金が不安です／上大岡トメ・杉山孝博・黒田尚子／主婦の友社
- 在宅緩和ケア医が会った「最期は自宅で」30の逝き方／高橋浩一／光文社
- 言葉かけから見直す「不適切な保育」脱却のススメ／菊地奈津美・河合清美／中央法規出版
- さよなら、子ども虐待／細川貂々・今一生／創元社
- 温めれば、何度だってやり直せる チョコレートが変える「働く」と「稼ぐ」の未来／夏目浩次／講談社
- 精神疾患のある人を支援困難にしないための基本スキルと対話のコツがわかる本／小瀬古伸幸／中央法規出版
- 限界ギリギリ家族 僕以外、知的障害の家族がようやくたどりついた「幸せ」の形／佐藤靖高／KADOKAWA
- 境界知能 教室からも福祉からも見落とされる知的ボーダーの人たち／古荘純一／合同出版
- マンガでわかる APD 聴覚情報処理障害／阪本浩一／法研
- 元気な町内会のつくり方 10の処方箋と80の実践事例／松下啓一／日本橋出版
- 新たな地域福祉活動推進の方法 福祉の地域づくり読本／都築光一／幻冬舎
- みんなの社会的処方 人のつながりで元気になる地域をつくる／西智弘・岩瀬翔・西上ありさ・守本陽一・稲庭彩和子・石井麗子・藤岡聡子・福島沙紀／学芸出版社



- マンション防災の新常識 逃げずに留まる「在宅避難」完全ガイド／釜石徹／合同フォレスト
- 家族でそなえる防災・被災ハンドブック／天野勢津子・矢守克也／イースト・プレス
- 対人援助職のための相談支援スキル図鑑／下園壮太・伊藤文／中央法規出版
- 「無料塾」という生き方 教えているのは、希望。／小宮位之／ソシム
- まず、ちゃんと聴く。 コミュニケーションの質が変わる「聴く」と「伝える」の黄金比／櫻井将／日本能率協会マネジメントセンター
- 妻が余命宣告されたとき、僕は保護犬を飼うことにした／小林孝延／風鳴舎
- 9割の社会問題はビジネスで解決できる／田口一成／PHP研究所
- 母を捨てる／菅野久美子／プレジデント社
- 今日、誰のために生きる？ アフリカの小さな村が教えてくれた幸せがずっと続く30の物語／ひすいこたろう・SHOGEN／廣済堂出版
- わたしからはじまる 心理的安全性 リーダーでもメンバーでもできる「働きやすさ」をつくる方法70／塩見康史・なかむらアサミ／翔泳社
- 私たちの世代は／瀬尾まいこ／文藝春秋



【コミック】（書名／著者名／出版社）

- 「子供を殺してください」という親たち(1)～(15)／押川剛・鈴木マサカズ／新潮社
- リエゾン こどものこころ診療所(16)／ヨンチャン・竹村優作／講談社
- 新・ちいさいひと 青葉児童相談所物語 (13)(14)／夾竹桃ジン・水野光博・小宮純一／小学館
- Shrink 精神科医ヨワイ(12)／七海 仁・月子／集英社
- 19番目のカルテ 徳重晃の問診(9)／富士屋カツヒト・川下剛史／コアミックス



地域福祉情報バンクは、平日8：30～17：00まで開所しています。毎月第4水曜日は、川崎市総合福祉センター（エポックなかはら）の保守点検日のため、17：00以降に1階受付窓口での図書・DVDの返却ができませんのでご注意ください。また、**8月17日（土）**は、川崎市総合福祉センター（エポックなかはら）の電気設備点検のため全館休館いたします。

以前、子育て関係のボランティアをしていたことがあります。同じ志を持った仲間とともに、他の活動では得られないような感動や喜びを体験できたことは、今でも良い思い出として残っています。皆さんもぜひ、無理のない範囲でボランティアを始めてみませんか？

「地域福祉情報バンク通信」についてのご意見・ご感想などを是非お寄せください。次号は10月1日発行予定です。（ま）

蔵書検索は「ふくみみ」で！
<https://k-fukumimi.com/>

